

ロータリー理解推進月間にあたって

国際ロータリー第2660地区 ガバナー

福家 宏



この月間にあたっては、ロータリアン自身がロータリーへの理解を深めることが第一ですが、ロータリアンではない周囲の人々にロータリーを紹介するというもう一つの大切な活動であります。

さて具体的には何をすれば良いのでしょうか。何はともあれ、一度国際ロータリーのホームページを開いてみて下さい。数限りないロータリー情報が満載されています。つまりしっかりした情報源がそこにあることをご確認下さい。

それ自体とても意味のあることだと思います。ただホームページを十分に読んだ積りでも、なかなか理解が進むと言うものではありませんが、自分が是非とも必要としている内容であれば、即座に理解が進む筈です。

ロータリーへの理解を深めることは、デスクの前に腰かけていてもある程度可能ではありません。しかしRIやロータリー財団のプログラムに実際に参加すれば、つまり実践を伴えば、理解は数倍進みます。プログラムに関して分からないことがあれば、どんどんリーダーに質問を投げかけて下さい。そしてもう一度ホームページを開いてみて下さい。さらに理解は進みます。ロータリーの理解を推進するには、まずは参加して自ら実践す

ることが最も有効だと私は思っております。

ロータリアンでない人にロータリーを紹介するということも大切です。大船渡市漁業組合の岩脇洋一組合長は、震災で壊滅状態となった地元漁業の復旧に全力を挙げていました。物品の運搬は、手分けして自転車を利用していました。

そこに大阪のRCから支援物資として軽トラック5台が届いたのです。岩脇氏は非常に驚き、感激されました。そして彼は言いました。「ロータリーって何でこんなことが出来るんだ」と。彼が大船渡西RCに入会されたのはそれから間もないことでした。奉仕を通じてロータリーを紹介した素晴らしい一例です。

(岩脇洋一氏は今年度当地区の地区大会に訪問されることになっています)

入会してから年数の浅い会員の皆様に対して、情報集会でロータリー情報を伝えることは、極めて大切です。しかし仮に入会後の年数の短い会員が、実際に大船渡市まで出かけて、岩脇組合長の感激に接したらどうなのでしょう？彼はロータリーそのものに感動する筈です。ロータリアンにとって、このような体験が私は非常に大切だと考えております。